

越代地区地域づくり懇談会

第3回 平成25年12月3日(火)
越代集会所センター 午後4:00～

越代地区では、平成25年12月3日(火)に第3回「越代地区地域づくり懇談会」を開催いたしました。今回は、今まで取り組んできた地域づくりのさらなる活性化に向けて、先進的な事例などを含めた内容について県中建設事務所の大竹課長よりお話しをいただきました。

また、地域の宝「越代の桜」の保全のために、現在何が大切な事なのかを含め、検討案についての活発な意見交換を致しました。

次 第

- 1 開会
- 2 あいさつ 大久田行政区区長 平松昭一氏
古殿町町長 岡部光徳氏
- 3 出席者紹介
- 4 懇談
(1)地域づくりのさらなる活性化へ向けて
(2)越代の桜の保全のための検討案について
- 5 その他
- 6 閉会



(1) 地域づくりのさらなる活性化へむけて

○地域の宝とは!

- ・地域の人々の心の中で誇りとして感じ、未永く広く伝えていきたいもの、それは、風土からなる「人」と「地域」と「時間軸」から生み出されるものである。最大の「地域の宝」は、ものではなく、人であり、絆であり、コミュニティーである。
- ・「地域に宝」を再発見し「身の丈」にあった取組みの継続が大事。それが自信や誇りとなって、個性と魅力ある地域(まち)づくりにつながっていく。

○「元気で楽しめる地域」にするために!

- ・元気で楽しめる地域にするためには、楽しみたくなる「何」が必要である。楽しむ際のキーワードは「五感+α」、見える(見る)、聞く、ふれる、食べる、匂う、感じる、学ぶなどが重要である。

○「6次産業」とは!

1次×2次×3次=6次産業の考え方である。生産という1次産業にとどまるのではなく、2次産業や3次産業にまで踏み込むことで、新たな就業機会や雇用の場を作り出し、農村の活性化につなげる活動である。

○全国的な事例紹介

- ・「葉っぱビジネス」徳島県上勝町 高級料理店でのツマモノとしての販売
- ・「ゆずの森」構想 高知県馬路村 ゆずの生産から加工・販売までを実施



【ツマモノ(葉っぱ)】



【ゆずの森】構想



【地域づくりのさらなる活性化へむけて】

(2) 越代の桜の保全のための検討案について

○補強盛土工検討断面

- 1案 ジオセル工法 (幅1.3mの盛土)
- 2案 ラップブロック+補強盛土工法 (ブロックH=2.00m)
- 3案 ラップブロック工法 (ブロックH=6.00m)



1案イメージ



2案イメージ



3案イメージ

古殿町 岡部町長よりアドバイスをいただきました

桜が危機的な状況になりつつある事を踏まえると景観と桜の維持管理を分けて捉えなければならないと思う。景観も大事な事であるが、桜そのものがなくなってしまうは「越代の桜」でなくなってしまう。現状を良く踏まえ、何が大事なのか検討を進めていく必要がある。

(対策案についての意見)

- ・桜のことを考えると、3案が良いと思う。しかし、景観上ブロックという色(茶色)など何とかならないものか。
- ・ラップブロックは植生できるのか
- ・ブロックに草を生やさないようにするには大変な事である。
- ・工事をする際、現在の根っこを切ることにはならないか。
- ・おおぎの会の意見としては、桜の自然を守るのであれば、現在のままで良いと思う。